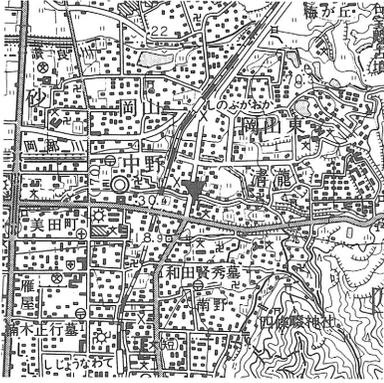


大阪・奈良井遺跡

- 1 所在地 大阪府四條畷市中野三丁目
- 2 調査期間 二〇〇二年(平14)八月〜一〇月
- 3 発掘機関 四條畷市教育委員会
- 4 調査担当者 村上 始
- 5 遺跡の種類 集落跡・祭祀遺跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代、中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

奈良井遺跡は、生駒山系から西へ派生する段丘上に立地し、東西

三三〇m南北三〇〇mの範囲が、古墳時代の集落跡・祭祀遺跡、鎌



(大阪東北部)

倉時代から室町時代までの集落跡として周知されている。

今回の発掘調査はマンション建設工事に伴うもので、調査面積は一〇〇九㎡である。検出した遺構は、掘立柱建物、土坑、溝、井戸などである。

井戸は石組みのもので、直

径約三・一八mの円形を呈し

ており、深さは約二・九六m

である。地表面から約二・

四mまで逆台形状に掘り込ん

だ後、曲物を設置する部分を

約〇・五六m掘りくぼめてい

る。曲物は三段に積み上げ、

その最上部から花崗岩の自然

石を組む。年代は、出土遺物

から、一二世紀後半から一三世紀初頭頃までのものと考える。

石の組み方には特徴があり、まず二〇〜四〇cm大の若干細長い形

のものを基礎に敷き並べ、次に裏込めの土を入れながら一〇〜二

〇cm大の様々な形のを約三〇cmの高さまで積み上げた後、再度

二〇〜四〇cm大の若干細長い形のを一段積んでいる。この様な

積み方を四回繰り返し、上部まで積み上げている。

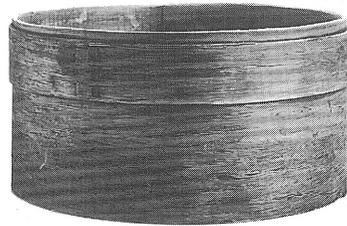
曲物の大きさは下段に設置されたものから順に、直径四一cm高さ

二一・五cm厚さ五mm、直径四五cm高さ二七cm厚さ五mm、直径五〇cm

高さ二〇cm厚さ五mmである。それらの曲物のうち最下段のものに墨

書が施されていた。井戸内からは、瓦器碗、白磁碗、土師器小皿、

土師質羽釜、須恵質練り鉢、砥石などが出土した。



全体

8 木簡の釈文・内容

(1)

阿□□□□□□□□□□

【冊カ】

径410×高(215)×厚5 061

曲物は檜材で、墨書は側板の外面に二カ所見られる。「阿」以下は曲物に対して縦方向に、「【冊カ】」以下は曲物に対して横方向に書かれている。

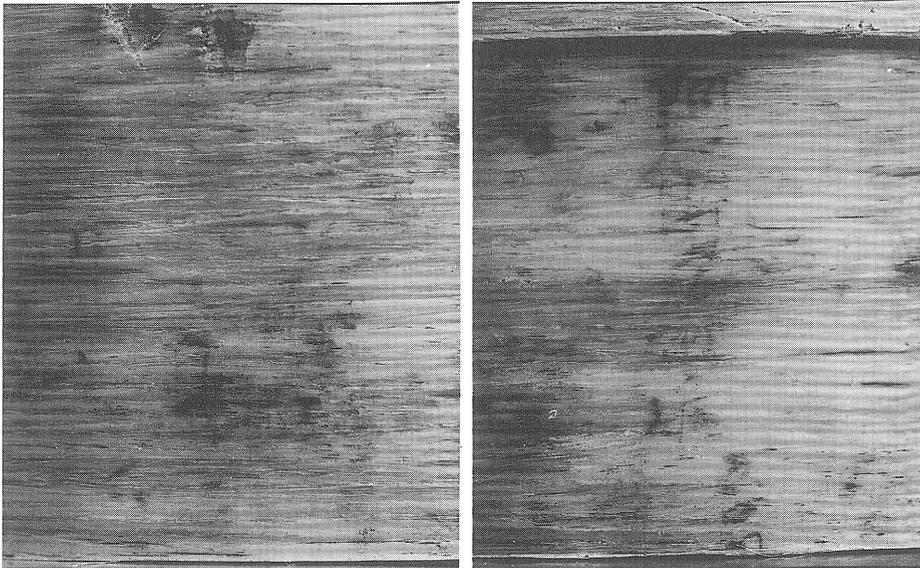
曲物は蒸し器などを再利用していることが多く、その場合下端に小さな孔があけられている。今回出土した曲物のうち、他の二点には孔を確認できたが、この曲物には確認できなかった。従って、下部を欠いて井戸枠として再利用したものと思われ、「阿」の墨書の右下の文字については、さらに数文字が続いていたものと考えられる。

なお、釈読及び赤外線デジタル写真撮影にあたっては、奈良文化財研究所の渡辺晃宏氏、中村一郎氏のご協力を得た。

9 関係文献

四條畷市教育委員会『奈良井遺跡発掘調査概要報告書』(二〇〇三年)

(村上 始)



部分 赤外線デジタル写真